

B-38 糊つけ布の空隙構造

川村短大 ○前島雅子

〔目的および方法〕 糊つけ布の仕上りは処理条件により大きく異なる。従来は糊つけ布の評価として主に布の剛軟度、通気性その他の項目が測定されているが、糊つけによる布地空隙構造の変化を調べることでより更に詳細に糊の付着状態を推察し、目的に応じた処理条件の選定の一助とすることが出来る。

PVA（ケン化度90%、重合度1400）による糊つけ綿布の空隙構造について、低圧ポロシメーターを用い、水銀圧入法による評価を試みた。

〔糊つけ条件〕

濃度： 0.2% , 2.0% , 10.0%

前処理： ナシ , 真空脱気20分

浸漬時間： 2分 , 10分

遠心脱水： ナシ , 100 r.p.m. , 1000 r.p.m.

後処理： 自然乾燥後アイロン仕上げ

〔結果〕 布地空隙半径 $4 \sim 60 \mu$ 範囲の累積水銀圧入容積は原布に較べ糊つけ布では小さくなり、高濃度糊液処理布程その傾向が著しい。濃度、前処理および脱水処理条件の違いによる空隙構造変化は主に小空隙半径側（約 10μ 以下）に見出された。その他処理布の空隙容積と脱液後の布の含液量との関連も認められた。